



第3回ICFシンポジウム

全人的医療に向けての ICF活用と期待

2012年12月13日

東京都医師会長

野中 博

透析医療から学んだ事

- 患者さんの社会復帰
- 人生・生活を支える
- 医療連携の意味
- 行動変容の意義



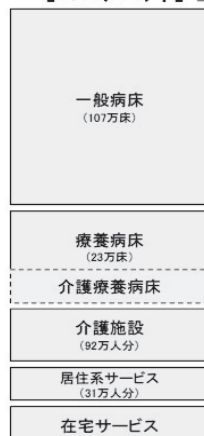
・治す医療(EBM) evidence based medicine

・支える医療(NBM) narrative based medicine

将来像に向けての医療・介護機能再編の方向性イメージ

○ 患者ニーズに応じた病院・病床機能の役割分担や、医療機関間、医療と介護の間の連携強化を通じて、より効果的・効率的な医療・介護サービス提供体制を構築。

【2011(H23)年】



【取組の方向性】

- 入院医療の機能分化・強化と連携
 - ・急性期への医療資源集中投入
 - ・亜急性期、慢性期医療の機能強化 等
- 在宅医療の充実
 - ・看取りを含め在宅医療を担う診療所等の機能強化
 - ・訪問看護等の計画的整備 等
- 在宅介護の充実
 - ・地域包括ケア体制の整備
 - ・ケアマネジメント機能の強化 等

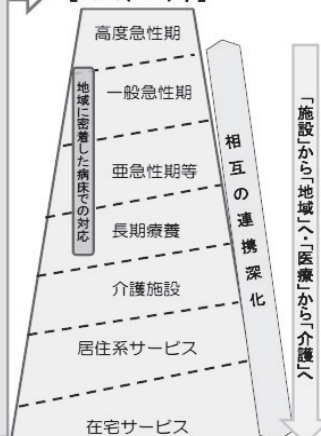
2012年以降、診療報酬・介護報酬の体系的見直し
基盤整備のための一括的法整備(2012年
目途法案化)

【患者・利用者の方々】

- ・病気になっても、職場や地域生活へ早期復帰
- ・医療や介護が必要になっても、住み慣れた地域での暮らしを継続

医療・介護の基盤整備・再編のための集中的・計画的な投資

【2025(H37)年】





地域の生活者の 人生・生涯を支える

1. 人工透析患者の場合

2. 在宅療養者の場合

